



「集団宿泊活動の意義」

校長 飯田 雅人

泊を伴う学校行事として、6月中に6年日光修学旅行、4年足柄宿泊体験学習を無事に終えることができ、あとは7月の5年愛川宿泊体験学習を残すだけとなりました。コロナ禍前には実施できて当たり前だったことが、今は実施することが当たり前ではなくなっています。日本全国の学校で、宿泊的行事をやむを得ず中止や日帰り実施などに変更して行っている学校が昨年度までたくさんありました。

昨年度本校では、運よく3学年とも実施することができました。通常とは違う世の中で、もちろん実施に至るまでには、感染症対策など多大なる労力がかかりました。実施できたのは、何度にもわたる日程変更の延期をしても、可能であれば何とか実施してあげたいという思いで計画・立案を繰り返していたことと、そこに至るまでの保護者の皆様のご協力があったからこそだと思っています。もちろん、運よく実施できたことは結果論に過ぎません。しかしながら何事もあきらめてしまえば、その先は何も起こらないことは、言うまでもないでしょう。

さて、そこまでして行っている「集団宿泊活動の意義」とは何でしょうか？
国立青少年教育振興機構によれば、

- 1 自然体験や生活体験が「主体的な学び」の基盤となる「自己肯定感」を高める。
- 2 集団宿泊活動が「よりよい人間関係を形成」し「対話的な学び」ができる学級づくりにつながる。
- 3 実感をともなった理解は「深い学び」にもつながる。と書かれています。

また、現行の学習指導要領の特別活動の中の遠足・集団宿泊的行事の目標は、「自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること」とされています。

たった1泊2日ではありますが、日頃の学校生活や家族旅行では決して味わうことのできない貴重な体験ができる大切な行事です。子どもは、行事を通して大きく成長していきます。宿泊体験が、きっとこれからの子どもたちの日頃の学校生活にも生きていくことでしょう。

話は変わりますが、私がうれしかったことは、もう一つあります。ペア学年の下の学年の子どもたちが、出発の時に見送りをしたり、宿泊行事が終わった各学年の教室の黒板などに「お帰りなさい〜！」などのメッセージを残したりしていたことです。それを見たり、読んだりした上の学年の子どもたちは、思いが伝わり、きっとうれしかったことでしょう。ただでさえ、コロナ禍でまだまだ交流が制限されている中ですが、これもコロナ禍以前のように、少しでもペア学年の活動を活性化させようと工夫している本校の強みだと思っています。

今後の子どもたちのさらなる活躍が楽しみになってきた出来事でした。